

山なみ

特別号

全国学力・学習状況調査の結果分析、及び今後に向けて

6年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査(4月実施)」の結果を本校で分析しました。

この調査は、『義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること』を目的としています。

この調査でわかるのは、子どもの学力の全てではありませんが、本校では、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、次の通り分析、教育指導の充実・学習状況の改善に努めてまいります。

◆本校での分析・児童質問紙・全体の傾向

国語、算数のともに全国平均正答率を下回りました。両教科とも解答形式が選択式の問題では、内容をしっかりと読み取ることができ正答率が高くなっています。知識・理解が一定程度定着している様子が見られます。反面、解答形式が記述式になると正答率が低くなります。国語では、文字数や書き入れる言葉など条件が指定された問題において条件を満たしていない解答が見られました。算数でも、条件に合う言葉や式を用いて解答できていないものが見られました。しかし、問題に対する無回答の割合は低くなっており、どんな問題に対してもあきらめずに取り組む様子が見られました。

児童質問紙からは、国語や算数の学習の必要性を感じ、学習内容がよくわかると思っている子が8割程度いることがわかりました。また、ICT機器の活用についても「自分のペースで進められる」「すぐ調べられる」「友達と交流できる」などで高い有効性が示されました。家庭学習については、土日の比較的時間のある期間に学習時間が長くなるなど、時間の有効活用が見られました。

◆「国語」について

- 情報同士の関連付けの仕方や図などによる語句同士の関係の表し方を理解して選択することができています。
- 話し言葉と書き言葉の違いに気付き、正しい表現の仕方について選択することができています。
- △目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように表し方を工夫することを苦手としています。

◆「算数」について

- 数量の関係を□を用いた式に表すことができています。
- 立方体の見取り図について理解し、正しくかくことができています。
- △球を箱の中に入れ、球の直径をもとに、立方体の体積を求めることが苦手でした。球の直径と立方体の辺の長さの関係を正しく捉えられていない様子が見られました。
- △道のりが等しい場合の速さについて、時間をもとに判断することはできましたが、その理由を、言葉や数に書き表すことに課題があります。

1 授業改善に努めます

- 「課題→見通し→個人思考→練り合い→まとめ→習熟」を基本型とした授業を展開します。
- 振り返りを充実させ、習熟問題に取り組むなど、学習内容の定着につなげていきます。
- 専科指導(算数・外国語・理科など)を実施し、専門的な指導の充実を図るとともに、教員の指導力向上を図ります。
- 根拠をもとに、自分の考えをまとめる力の育成に向け、授業改善を図ります。
- ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びとなるように意図的に学習活動を展開し、分かる授業づくりを一層進めます。

2 家庭学習の継続、質の向上に努めます

- 与えられる学習から自ら考える学習、主体的に学ぶ学習を通して、学習習慣の定着に粘り強く取り組みます。
- 「自主学习ノート」の掲示や学級通信などを活用し、家庭学習の質や意欲の向上に努めます。
- 「生活リズムチェックシート」の継続により、望ましい学習(読書)・生活習慣(メディア利用)の定着を図ります。

3 サポート学習を継続します

- 「マナビーランド」等を活用し、学び直しの充実や基礎基本の徹底を図ります。
- 「放課後学習サポート」を継続し、不得意な分野の克服や基礎・基本の定着に取り組めます。